



TITLE:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2012年4月-2012年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2012年4月-2012年3月). 京都大学高等教育研究 2013, 19: 177-217

ISSUE DATE:

2013-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/185749>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター日誌

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
2012. 4. 4	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 1 回）
4. 5	文学研究科プレ FD プロジェクト事前研修会
4.11	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 24 年度第 1 回）
4.20	関西地区 FD 連絡協議会第 5 回幹事会
4.29	准教授 スチュアート ティモシー ウィリアム チェンマイ大学の人文科学部にて講義及び英語学科関係教員・学生と会談、タイ商科大学にて The 4th LIROD International Conference に参加及びタイの学術団体と JACET2013 について打ち合わせのためタイへ海外出張（5.6 帰国）
5. 9	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 24 年度第 1 回） 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 2 回）
5.16	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 24 年度第 2 回）
5.18	准教授 ダルスキー デビッド ジュローム シカゴ大学にて本の執筆のための資料収集、シェラトンシカゴホテルにて国際会議（Association for Psychological Science）に参加のためアメリカへ海外出張（5.28 帰国）
5.19	関西地区 FD 連絡協議会 第 5 回総会 場所：芝蘭会館 開会挨拶：安岡 高志（立命館大学） 議事： 1. 次期代表幹事校、幹事校の選出について 2. 平成 23 年度活動報告について 3. 平成 24 年度活動方針について 4. 平成 23 年度決算について 5. 平成 24 年度予算について 6. その他 ポスターセッション「FD 活動の報告会 2012」 01 立命館大学 安岡 高志・山本 美奈・小野 勝大・宮浦 崇・林 徳治・沖 裕貴 （教育開発推進機構 自己点検プロジェクト） 『皆さんも Plan を立ててみませんか』

- 02 神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部
松田 光信・溝部 順子・黒野利佐子・西出 順子・酒井 健雄
柳田潤一郎・白銀 千枝 (FD 委員会)
『教育改善を目指す全学的な FD 活動—カリキュラムと科目内容の整合性および科目間の接続性の検討—』
- 03 大阪工業大学 浦田 直樹 (教務システム部教務課)
『大阪工業大学での携帯電話 (C-Learning) を利用した授業アンケート実施事例』
- 04 京都外国語大学
村上 正行 (マルチメディア教育研究センター・FD 特別委員会)
『授業実践の情報共有・議論を目指したポスターセッション』
- 05 関西大学 三浦 真琴 (教育開発支援センター)
『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開』
- 06 京都産業大学
児玉 英明・森 洋・山内 尚子・中沢 正江 (教育支援研究開発センター)
『学生情報の一元化による初年次修学支援システムの構築
—学部別低単位基準を指標にした教職協働—』
- 07 京都産業大学
中西 勝彦・鬼塚 哲郎・中沢 正江・森 洋・山内 尚子・児玉 英明
(キャリア教育研究開発センター・教育支援研究開発センター)
『キャリア教育におけるファシリテーターの役割』
- 08 京都産業大学
山内 尚子・森 洋・中沢 正江・児玉 英明 (教育支援研究開発センター)
『学部の主体性を尊重した組織的 FD を促進する授業アンケート』
- 09 大阪樟蔭女子大学
有田 節子 (学士課程教育センター初年次教育担当)
白川 哲郎 (FD・SD 活動推進委員会委員長)
『初年次教育を通じた FD の推進—樟蔭“チーム AS”の誕生—』
- 10 京都大学 溝上 慎一
(高等教育研究開発推進センター／教育学研究科／FD 研究検討委員会)
『「自学実習等学生の学習生活実態調査」の実施・結果報告』
- 11 京都大学 高橋 雄介・大塚 雄作 (高等教育研究開発推進センター)
『京都大学工学部の FD 活動への取組
—第 7 回工学部教育シンポジウムの実施—』
- 12 帝塚山大学 中島 剛 (事務局学生支援センター教学支援課)
『帝塚山大学の FD 行事の変遷について』
- 13 滋賀県立大学 倉茂 好匡 (教育実践支援センター)
『滋賀県立大学方式の「授業の基本」ワークショップ』
- 14 関西学院大学 (高等教育推進センター)
『関西学院大学における「共同研究助成」支援のしくみ
—組織的な FD・SD 活動を行うために—』
- 15 大阪商業大学 高橋 美貴 (総合経営学部経営学科)
『就業力育成支援のための携帯電話を利用した出席確認システムの導入』
- 16 京都女子大学 桂 まに子 (図書館司課程)

- 『「レファレンス POP」 という取り組み』
- 17 大阪市立大学 飯吉 弘子 (大学教育研究センター)
『大阪市大の自律的・日常的・教育的改善・FD 宣言と全学&部局 FD』
- 18 東洋食品工業大学 松永 藤彦 (学生支援委員長／包装食品工業課)
『新入生合宿研修：コミュニケーション機会提供と学びの目的意識促進のこころみ』
- 19 関西外国語大学短期大学部 村上 裕美
『MH 式ポートフォリオ大学英語学習者用を活用した自立した学生の育成と教師の授業改善を促す試み』
- 20 京都精華大学 森下 行彦・谷 美奈 (共通教育センター)
『「推敲」という問題—自己省察的な文章から作品化へ—』
- 21 FD 共同実施 WG
半澤 礼之 (京都大学高等教育研究開発推進センター)
『初任教員向けプログラム (カンジュニ)』

活動報告

- 『FD に関する実態調査 (2012)』 結果速報
高橋 雄介・大塚 雄作 (京都大学)
- 『就業力育成支援のための携帯電話を利用した出席確認システムの導入』
高橋 美貴 (大阪商業大学)

閉会挨拶：大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター)
情報交換会

- 5.23 The Phd Movie 上映会・パネルディスカッション
場所：京都大学 附属図書館 ライブラリーホール
- 5.30 FD 研究検討委員会 (第 13 回)
6. 6 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 24 年度第 3 回)
- 6.29 教授 赤松 紀彦 蘇州大学にて中国昆曲国際学術シンポジウムに参加及び発表、中国
伝統演劇に関する資料収集と意見交換のため中国へ海外出張 (7.5 帰国)
- 6.29 平成 24 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続
「コースポートフォリオを活用した大学カリキュラムの質保証モデルの構築」
研究代表者：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授
研究分担者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
飯吉 透 高等教育研究開発推進センター教授
酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授
半澤 礼之 高等教育研究開発推進センター特定助教
平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授
藪 厚生 大阪府立大学工業高等専門学校メカトロニクスコース准教授
石村 源生 北海道大学高等教育推進機構特任准教授
長田 尚子 清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科准教授
尾澤 重知 早稲田大学人間科学学術院准教授
勝又あずさ 成城大学共通教育研究センター特別任用准教授
神田 宏 近畿大学法学部教授

- 木村 修平 立命館大学言語教育センター嘱託講師
 澤田 忠幸 愛媛県立医療技術大学保健科学部准教授
 下井 俊典 国際医療福祉大学保健医療学部講師
 村井 淳志 金沢大学人間社会研究域学校教育系教授
 村上 裕美 関西外国語大学短期大学部英米語学科准教授
- 平成 24 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続
 「総合研究大学における英語学術論文作成技能の育成に向けた全学共通教育のコース設計」
 研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授
 研究分担者：寺内 一 高千穂大学商学部教授
 飯島 優雅 獨協大学経済学部准教授
 高橋 幸 高等教育研究開発推進機構准教授
 金丸 敏幸 大学院人間・環境学研究科助教
- 平成 24 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規
 「青年期発達における自己形成の研究」
 研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授
- 平成 24 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規
 「深い学習を促すパフォーマンス評価の開発—OSCE-R を中心に—」
 研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
 研究分担者：平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授
- 平成 24 年度科学研究費助成事業・研究活動スタート支援 継続
 「パーソナリティ特性と身体的・精神的・社会的健康に関する発達心理的研究」
 研究代表者：高橋 雄介 高等教育研究開発推進センター特定助教
7. 4 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 24 年度第 4 回)
- 7.18 高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 24 年度第 2 回)
 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 24 年度第 3 回)
- 7.20 准教授 スチュアート ティモシー ウィリアム Victoria 大学にて本の執筆のための資料収集及び共同研究打ち合わせ、Windsor 大学にて本の執筆のための資料収集、Capilano 大学にて本の執筆のための資料収集及びワークショップにて発表のためカナダへ海外出張 (8.21 帰国)
- 7.29 平成 24 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 継続
 「若手 FD 担当者が抱く問題意識とキャリア展望」
 研究代表者：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
 研究分担者：杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
 半澤 礼之 高等教育研究開発推進センター特定助教
8. 1 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 24 年度第 5 回)
8. 7 FD 研究検討委員会主催
 大学院生のための教育実践講座 2012 —大学でどう教えるか—
 場所：京都大学百周年時計台記念館

開会式 挨拶 淡路 敏之 (京都大学理事)

趣旨とプログラム説明 酒井 博之 (高等教育研究開発推進センター准教授)

【BASIC】

セッション1 グループ討論1 「大学授業をどう思うか (自己紹介)」

セッション2 ミニ講義1 「大学授業の現在と未来」

飯吉 透 (高等教育研究開発推進センター教授)

セッション3 ランチと自由討論

セッション4 グループ討論2 「大学授業で教師に求められるもの」

セッション5 ボディワーク 「他者とのつながり・自分とのつながり」

濱野 清志 (京都文教大学教授)

セッション6 ミニ講義2 「大学授業におけるガイダンスの重要性」

グループ討論整理

セッション7 全体討論 「大学で教えるために」

セッション8 ミニ講義3 「大学で教えるということ」

大塚 雄作 (高等教育研究開発推進センター長・教授)

【ADVANCED】

セッション1 全体討論1 「教える側からみた大学授業 (自己紹介)」

セッション2 ランチと自由討論

セッション3 模擬公開授業・検討会

セッション4 グループ・全体討論

閉会式 挨拶・修了証授与 淡路 敏之 (京都大学理事)

閉会式終了後 情報交換会

8.19～20

大学生研究フォーラム 2012

場所：京都大学百周年時計台記念館

開会

学校から仕事へのトランジション調査の中間報告

「学校教育の経験は仕事にどのように影響を及ぼしているか」

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター)

昼食兼交流会

挨拶 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)

吉見 俊哉 (東京大学大学総合教育研究センター長／副学長)

松本 宏 (財団法人電通育英会理事長)

シンポジウム

「グローバルキャリアの時代に大学教育は何ができるか？」

ファシリテーター：中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター准教授)

イントロダクション

事例報告

「生物学自主研究—『研究』を通して学部学生が能動的な社会的力をつける試み—」

福田 公子 (首都大学東京理工学研究科)

「学生の国際協商力を高めるための教育・学習」

勝又美智雄 (国際教養大学)

「グローバル戦略に呼応した人材開発のあり方」

林 雅子 (アサヒビール株式会社人事部)

参加者ダイアログ

パネルディスカッション

小括

総括パネルディスカッション

司会 松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

児美川孝一郎 (法政大学キャリアデザイン学部)

吉見 俊哉 (東京大学大学総合教育研究センター)

大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

閉会挨拶

高校教諭のためのシンポジウム

場所：京都大学百周年記念館

イントロダクション

「シンポジウムの構成と展開、参加者の紹介」

大堀 精一 (月刊情報誌「学研・進学情報」監修)

特別講演

「凡事徹底—想定外の時代を生きる—」

村上 育朗 (教育未来研究会「そうぞう」代表)

ランチタイム・ミーティング

大学生研究フォーラム 2012 の概括と高校教諭へのメッセージ

大学研究フォーラム 2012 の概括：溝上 慎一

溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター准教授)

メッセージ1：児美川孝一郎 (法政大学キャリアデザイン学部)

メッセージ2：福田 公子 (首都大学東京理工学研究科)

高校現場からのレポート

「生徒の進路を見据えたキャリア学習」

レポート：高村 聖悟 (広島県立尾道北高校教諭)

「教科を横断した小論文指導で社会を考える」

レポート：下谷 慎一 (鳥取県立鳥取西高校教諭)

パネル・ディスカッション

「キャリアと学びを＜社会＞に向けてどう指導するか」

奥村 弘史 (滋賀県立膳所高校教諭)

西根 正子 (三重県立伊勢高校教諭)

浜田 伸一 (福島県立福島高校教諭)

佐藤 幸彦 (北海道札幌北高校教諭)

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

司会：大堀 精一 (月刊情報誌「学研・進学情報」監修)

総括と次年度に向けて

懇親会

- 8.21~22 MOST フェロー合宿 2012 (第2回ミーティング)
 場所: KKR 大阪 ボードルーム
 プログラム (1日目)
 開会挨拶
 挨拶: 飯吉 透 (京都大学高等教育研究会開発推進センター教授)
 活動報告
 司会: 田口 真奈
 デイナーセッション
 プログラム (2日目)
 MOST フェロープログラムの今後
 酒井 博之 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
 ファシリテーター: 田口 真奈
 第19回大学教育研究フォーラムに向けて
- 8.27 平成24年度第2回 MOST 講習会
 場所: 吉田南1号館1共23室
 MOST、KEEP Toolkit の概要紹介
 事例紹介—コースポートフォリオ、授業改善
 操作説明—スナップショット作成、コミュニティ
 実際の操作 (参加者の操作体験、質疑応答)
- 9.5 FD 代表者ネットワーク (JFDN) 平成24年度会合
 場所: 京都大学 芝蘭会館 別館研修室
 趣旨説明: 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
 I. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題 I
 1. 山田 邦雅 (北海道大学高等教育推進機構准教授)
 「北海道地区 FD・SD 推進協議会の活動」
 2. 佐藤 洋一 (岩手医科大学医学部教授)
 「いわて高等教育コンソーシアムにおける大学間連携 FD ネットワーク」
 3. 杉本 和弘 (東北大学高等教育開発推進センター准教授)
 「東北大学における教育関係共同利用拠点の活動と課題」
 4. 小田 隆治 (山形大学高等教育研究企画センター教授)
 「FD ネットワーク “つばさ” 現状・課題・評価」
 5. 石田 久之 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授)
 「障害者高等教育拠点—聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築—」
 6. 北池 正 (千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター長/教授)
 「看護学教育研究共同利用拠点の現状と課題」
 昼食・フリーディスカッション
 II. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題 II
 7. 林 透 (北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター特任准教授)
 「大学コンソーシアム石川 (UCI) FD・SD 活動の展開」
 8. 山川 修 (福井県立大学学術教養センター教授・F レックス会長)

「福井県学習コミュニティ推進協議会 (F レックス)」

9. 夏目 達也 (名古屋大学高等教育研究センター教授)

「名古屋大学 FD・SD 教育改善支援拠点の活動と課題」

10. 鈴木 康之 (岐阜大学医学教育開発研究センター センター長/教授)

「岐阜大学医学教育開発研究センター Medical Education Development Center (MEDC)」

11. 沖 裕貴 (立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長/教授)

「全国私立大学 FD 連携フォーラムの取組」

12. 徳永 寿老 (大学コンソーシアム京都高等教育研究推進事業部事務局長)

「大学コンソーシアム京都の FD 活動 現状と課題、評価について～ポスト GP および第4ステージに向けて～」

13. 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター センター長/教授)

9. 7 平成24年度 京都大学新任教員教育セミナー

場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

開会挨拶 淡路 敏之 (教育・学生担当理事)

趣旨説明 大塚 雄作 (高等教育研究開発推進センター長)

司会進行：田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター准教授)

セッション1

ミニ講義1：「現在の大学教育の動向と京都大学のポリシー」

淡路 敏之 (教育・学生担当理事)

司会進行：田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター准教授)

セッション2

ミニ講義2：「京大生の学習の実態」

溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター准教授)

セッション3

ミニ講義3：「京大の教育的取組」

全学共通教育 (ポケゼミ)

少人数教育部会長 吉田 純

京都大学の国際教育

国際交流推進機構助教 渡部 由紀

理学部の少人数担任制度

理学部少人数担任委員会委員長 福田 洋一

京大の教育サポート・リソース

高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代

セッション4

ミニ講義4：「私の授業」

鎌田 浩毅 (人間・環境学研究科教授)

セッション5

グループ討論：「京大でどう教え、指導するか」

【事】…事例紹介者、【ファ】…ファシリテーター

1. アクティブ・ラーニング型の授業をつくる

【事】学術情報メディアセンター教授 喜多 一

【ファ】高等教育研究開発推進センター准教授 田口 真奈

2. 学力の低下、学生の多様化にどう対応するか？
 【事】 工学研究科准教授 須田 淳
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
3. 英語による授業をどう行うか？
 【事】 農学研究科教授 天野 洋
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター特定助教 田川 千尋
4. ソーシャル・メディアを使った双方向型授業
 【事】 経営管理研究部教授 若林 靖永
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター特定准教授 酒井 博之
5. 困難を抱えた学生に向き合うには？
 【事】 健康科学センター・児童青年精神医学助教 上床 輝久
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター特定助教 半澤 礼之
6. 博士課程院生のキャリア形成支援
 【事】 キャリアサポートセンター教授 梅田 幹雄
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター特定助教 坂本 尚志
7. 学習評価・教育評価の現在
 【事】 高等教育研究開発推進センター教授 大塚 雄作
 【ﾌｧ】 高等教育研究開発推進センター特定助教 高橋 雄介

セッション 6 ラップアップ

閉会式 挨拶 大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター長・教授）

- 9.16 教授 松下 佳代 アデレード大学歯学部タウンゼント教授訪問のためオーストラリアへ海外出張（9.20 帰国）
- 9.21 センター研究会
 「ヨーロッパにおけるフランス高等教育の競争力強化のための戦略」
 報告者：アラン・クーロン（パリ第8大学教授）
 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成24年度第6回）
- 9.25 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成24年度第4回）
10. 1 特定非営利活動法人・学習開発研究所がセンターを訪問。当該研究所が設置準備している京都レッツラーン大学校の構想を共有し意見交換。
 対応者：大塚 雄作、飯吉 透、酒井 博之
10. 4 State Universtiy of New York, Center for Collaborative Online International Learning (COIL)
 センター長 Dr. Jon Rubin がセンターを訪問。SUNY COIL の取り組みについて意見交換。
 対応者：飯吉 透、梶田 将司（情報環境機構 IT 企画室・教授）、渡部 由紀（国際交流センター・助教）
10. 9 センター研究会
 “Promoting and Sustaining Teaching Innovation”
 報告者：Angélica Natera (Associate Director for Academic Innovation, LASPAU)

- 10.10 第 84 回公開研究会
『ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化』
場所：京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール
進行役：田口 真奈
開会挨拶・趣旨説明
飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
第一部 講演・ワークショップ
エリック・マズール（ハーバード大学教授）
「Peer Instruction: Promoting Deep Understanding」
（ピア・インストラクション：深い理解を促進する）
第二部 パネルディスカッション
＜話題提供＞
溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）
「京都大学の心理学の授業におけるピア・インストラクションの実践—大教室でのアクティブラーニング」
“The Psychology Class Using Peer Instruction at Kyoto University: An Active-Learning in the Large Classroom”
松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
「アクティブで深い学びのための仕組み」
“Pedagogy for active and deep learning”
飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
「教育イノベーションの育成と普及」
“Fostering and Diffusing Educational Innovation”
＜コメント＞
エリック・マズール（ハーバード大学教授）
＜ディスカッション＞
閉会挨拶 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター長）
- 10.10 准教授 ダルスキー デビッド ジュローム Westin Riverwalk（サンアントニオ）にて ISETL conference に参加及び発表のためアメリカへ海外出張（10.16 帰国）
- 10.17 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 7 回）
- 10.23 2012 ISSOTL Conference 参加及び情報収集
参加者：飯吉 透教授（国内用務のため 10.28 帰国）
田口 真奈准教授（10.29 帰国）
- 10.24 教授 溝上 慎一 ジョージア大学にて International Conference on Dialogical Self での発表及び情報収集のためアメリカへ海外出張（10.30 帰国）
- 11.14 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 24 年度第 5 回）
高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 8 回）
- 11.20 センター研究会
「研究大学における学習成果を探究する」
報告者：ジョン・ダグラス（カリフォルニア大学バークレー校シニアリサーチフェロー）

- 11.23 教授 赤松 紀彦 浙江大学日本語言語文化研究所にて2013年版中国語CALL教材作成のためのコンテンツ収集及び浙江大学日本語言語文化研究所関係者との意見交換のため中国へ海外出張(11.26 帰国)
- 11.26 FD 研究検討委員会・第7回勉強会
場所：附属図書館3階 ライブラリーホール
- 11.29 FD 研究検討委員会公開授業・検討会
授業担当：飯吉 透(高等教育研究開発推進センター・教授)
授業科目：全学共通科目 A群(社会科学系)
「オープンエデュケーションの世界」
- 11.30 工学部主催「第8回工学部教育シンポジウム」
場所：京都大学桂キャンパス・桂ホール
司会：高橋 雄介
開会挨拶 工学部長 北野 正雄
話題提供
「主体的学びをいかに実現するか—中教審答申と自学自習実態調査に基づいて」
大塚 雄作(高等教育研究開発推進センター)
話題提供
「新しい教養・基礎教育の実現をめざして—国際高等教育院構想」
北野 正雄(工学部長)
教育改善に向けて
私の授業—アンケート結果を受けて—
伊藤 禎彦(地球工学科)
長谷川将克(物理工学科)
土居 伸二(電気電子工学科)
成績データベースについて
加藤 直樹(建築学科)
委員長総括
三ヶ田 均(新工学部新工学教育プログラム実施専門委員会委員長)
ディスカッション
12. 7 平成24年度第3回MOST講習会
場所：吉田南1号館1共23室
MOST、KEEP Toolkitの概要紹介
事例紹介—コースポートフォリオ、授業改善
操作説明—スナップショット作成、コミュニティ
実際の操作(参加者の操作体験、質疑応答)
12. 7 准教授 スチュワート テイモシー ウィリアム Jumeira大学にて英語教授法やFD・カリキュラムデザインに関する会議及びワークショップに参加、英語教育についてのディスカッションのためドバイへ海外出張(12.15 帰国)

12.12	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 9 回）
12.14	教授 飯吉 透 北京師範大学にてカンファレンス運営委員会ミーティング、COPI 学会基調講演登壇及び情報収集のため中国へ海外出張（12.17 帰国）
12.19	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 24 年度第 6 回）
2013. 1. 9	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 24 年度第 10 回）
1.27	<p>文部科学省特別経費プロジェクト総括シンポジウム （第 85 回公開研究会）</p> <p>『ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる—』</p> <p>場所：京都大学芝蘭会館（稲盛ホール）</p> <p>来賓挨拶：江崎 信芳（京都大学理事）</p> <p>池田 貴城（文部科学省高等教育局大学振興課長）</p> <p>開会挨拶：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>「FD ネットワーク形成のこれまでとこれから」</p> <p>司会：高橋 雄介（京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教）</p> <p>第一部</p> <p>基調講演 1</p> <p>Randy Bass (Associate Provost / Executive Director, Center for New Designs in Learning & Scholarship, Georgetown University)</p> <p>“Designing for Innovation: Teaching, Learning and the Culture of the University”</p> <p>問題提起</p> <p>飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>「日本の大学教育の課題と可能性—米国との比較という観点から—」</p> <p>第二部</p> <p>趣旨説明 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>基調講演 2</p> <p>Elizabeth Barkley (Professor, Foothill College Fine Arts and Communication Division)</p> <p>“Terms of Engagement: Understanding and Promoting Student Engagement in Today’s College Classroom”</p> <p>報告 1</p> <p>田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>「教育改善のための文化を創る—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを中心に—」</p> <p>報告 2</p> <p>酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>「大学教育実践の可視化・共有化による FD ネットワーク形成」</p> <p>報告 3</p> <p>松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）</p> <p>「学習ツールとしての学習評価—組織的なパフォーマンス評価の取組を事例として—」</p>

- 報告 4
溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
「学生の学びと成長データの理論的総括」
ディスカッション
開会挨拶：大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
- 1.29 センター研究会
「ジョージタウン大学の教育イノベーションについて—アドミニストレーターとしての視点から—」
報告者：Randy Bass
(Associate Provost / Executive Director, Georgetown University Center for New Designs in Learning & Scholarship)
- 1.30～31 センター研修会合宿
講師：吉田 文 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)
講師：合田 哲雄 (文部科学省高等教育局企画官)
2. 1 センター研究会
「協同学習—その理論・研究・実践を統合する—」
報告者：Elizabeth Barkley
(Professor, Foothill College Fine Arts and Communication Division)
2. 3 准教授 酒井 博之 ELI 学会参加及び資料収集のためアメリカへ海外出張 (2.8 帰国)
2. 6 助教 高橋 雄介 ゲント大学 Dr. Moriya 研究室他にて当該課題遂行のため、Dr. Moriya、Prof. De Fruyt と研究打合せ及び資料収集のためベルギーへ海外出張 (2.12 帰国)
- 2.13 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 24 年度第 7 回)
高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 24 年度第 11 回)
- 2.14 文学研究科プレ FD プロジェクト平成 24 年度事後研修会
3. 1 平成 24 年度第 4 回 MOST 講習会
場所：京都大学吉田南 1 号館 1 共 23 教室
プログラム
趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明
MOST 操作説明
参加者によるスナップショットの作成
3. 1 教授 松下 佳代、准教授 溝上 慎一
ボストン市内にて打合せ準備、資料整理、ハーバード大学 Department of Physics にて Prof. Mazur 授業参観、国際関係関連研究調査及び打ち合わせ、MIT Technology-Enhanced Active Learning にて Prof. Peter Dourmashkin 訪問、国際関係関連研究調査及び打ち合わせ、ハーバード大学にて Dr. Aladjem 他訪問及び Dr. Joshua Green 授業参観のためアメリカへ海外出張 (3.8 帰国)
3. 2 助教 田川 千尋 国立図書館他にて資料収集及びインタビュー、大学評価研究会参加、マルヌ・ラ・ヴァレ大学統計センターにて資料収集、CIEP (国際教育学センター) 資料室にて資料収集のためフランスへ海外出張 (3.10 帰国)

3. 3	助教 坂本 尚志 パリ大学第4ソルボンヌにてスタートアップ経費に関する研究遂行のため資料調査、現代出版史研究所及びフーコー・アーカイブにてスタートアップ経費に関する研究遂行のため資料調査、国立図書館フランソワ・ミッテランにて Nicolas Dubos 氏、ボルドー第三大学博士研究員と面談及び資料調査のためフランスへ海外出張 (3.11 帰国)
3.11	准教授 スチュワート ティモシー ウィリアム World Education Thailand にてカリキュラム開発に関する意見交換・施設見学等、Ambassador Hotel にて FLLT2013 Conference に参加及び発表と情報収集のためタイへ海外出張 (3.18 帰国)
3.13	高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 24 年度第 8 回)
3.14～15	<p>第 19 回大学教育研究フォーラム</p> <p>場所：京都大学吉田南 1 号館・総合館、百周年時計台記念館</p> <p>開会の挨拶：松本 紘 (京都大学総長)</p> <p>シンポジウム 「『学び』を改めて問うー主体的な学びとは何なのかー」</p> <p>報告者 渡部 信一 (東北大学大学院教育情報学研究部教授／研究部長)</p> <p>報告者 美馬のゆり (公立はこだて未来大学情報科学部教授)</p> <p>報告者 田中 智志 (東京大学大学院教育学研究科教授)</p> <p>報告者 藤田 英典 (共栄大学教育学部教授／学部長)</p> <p>報告者 松阪 浩史 (文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長)</p> <p>司会 松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>小講演 1</p> <p>及川 恵 (東京学芸大学教育学部准教授)</p> <p>田島 充士 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授)</p> <p>飯吉 透 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)</p> <p>田口 真奈 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)</p> <p>酒井 博之 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)</p> <p>清水 栄子 (阿南工業高等専門学校 FD 高度化推進室特命講師)</p> <p>小講演 2</p> <p>山田 和人 (同志社大学文学部教授・PBL 推進支援センター長)</p> <p>耳塚 寛明 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)</p> <p>桂 瑠以 (お茶の水女子大学学生支援センター講師)</p> <p>長澤 多代 (三重大学附属図書館研究開発室准教授)</p> <p>山村 滋 (大学入試センター研究開発部教授)</p> <p>参加者企画セッション 13 件</p> <p>個人研究発表 6 部会 96 件</p> <p>教育評価研究部会 (1) (2) (3) (4)／カリキュラム研究部会 (1) (2)／授業研究部会 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)／FD・授業公開研究部会 (1) (2) (3) (4)／e-Learning・遠隔教育研究部会 (1)／大学生・大学生活研究部会 (1) (2) (3) (4)</p>

(寺井佐加恵)

高等教育研究開発推進センター組織

（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

高等教育研究開発推進センター協議員：

大塚 雄作	センター長		
飯吉 透	センター教授	松下 佳代	センター教授
吉田 純	センター教授	山本 行男	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
淡路 敏之	高等教育研究開発推進機構長（～4 月）		
林 信夫	高等教育研究開発推進機構長（5 月～）		
鈴木 晶子	高等教育研究開発推進機構副機構長		
富田 恭彦	人間・環境学研究科長		
山極 壽一	大学院理学研究科長		
川添 信介	大学院文学研究科教授		
前平 泰志	大学院教育学研究科長		
寺田 浩明	大学院法学研究科教授		
塩地 洋	大学院経済学研究科教授		
小西 靖彦	大学院医学研究科教授		
橋田 充	大学院薬学研究科教授		
白井 泰治	大学院工学研究科教授		
宮川 恒	大学院農学研究科教授		
佐藤 亨	大学院情報学研究科長		
中島 浩	学術情報メディアセンター長		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

大塚 雄作	センター長		
飯吉 透	センター教授	松下 佳代	センター教授
吉田 純	センター教授	山本 行男	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
田口 真奈	センター准教授	溝上 慎一	センター准教授
桂山 康司	センター准教授	久代 恵介	センター准教授
Dalsky David Jerome	センター准教授	Stewart Timothy William	センター准教授
酒井 博之	センター特定准教授（10 月～センター准教授）		
半澤 礼之	センター特定助教（～9 月）	田川 千尋	センター特定助教
高橋 雄介	センター特定助教	坂本 尚志	センター特定助教
田中 一孝	センター特定助教（3 月～）		

平成 24 年度学外研究協力者：

米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	立命館大学文学部准教授

吉田 文 早稲田大学教育・総合科学学術院教授
中原 淳 東京大学大学総合教育研究センター准教授
田中 每実 武庫川女子大学文学部教育学科教授
荒木 光彦 松江工業高等専門学校校長
井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
山田 礼子 同志社大学社会学部教授
村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
鈴木真理子 滋賀大学教育学部教授
杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授
山田 剛史 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授
小田 隆治 山形大学地域教育文化学部教授
絹川 正吉 新潟大学理事
夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
本郷優紀子 桜美林大学・総合研究機構事務局長
尾澤 重知 早稲田大学人間科学学術院准教授
圓月 勝博 同志社大学文学部教授
沖 裕貴 立命館大学教育開発推進機構教授
林 創 岡山大学教育学部准教授
栗田佳代子 大学評価・学位授与機構評価研究部准教授
坂東 昌子 NPO 法人 知の人材ネットワーク・あいんしゅたいん理事長
高橋 哲也 大阪府立大学副学長
Eric Mazur Harvard 大学教授
Randy Bass Georgetown 大学 Associate Provost

平成 24 年度学内研究担当教員：

子安 増生 大学院教育学研究科教授
田中 耕治 大学院教育学研究科教授
高見 茂 大学院教育学研究科教授
杉本 均 大学院教育学研究科教授
楠見 孝 大学院教育学研究科教授
大山 泰宏 大学院教育学研究科准教授
土井 真一 大学院法学研究科教授
出口 康夫 大学院文学研究科准教授
永井 和 大学院文学研究科教授
福谷 茂 大学院文学研究科教授
宮川 恒 大学院農学研究科教授
美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
喜多 一 学術情報メディアセンター教授

平成 24 年度企画協力教員

丸橋 良雄 大学院人間・環境学研究科教授
酒井 敏 大学院人間・環境学研究科教授
西山 教行 大学院人間・環境学研究科准教授
日置 尋久 大学院人間・環境学研究科准教授
壇辻 正剛 学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

※職名は 2012 年度

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

大塚 雄作（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・大塚雄作 2012.7 「大学教育の動向と教育評価—学びの実質化に向けて—教育テスト研究センター第 22 回研究会報告書」（<http://www.cret.or.jp/files/31f73c358af1897e7d66cd58edfe73b8.pdf>）
- ・高橋雄介・大塚雄作・斉藤有吾 2012.12 「FD 活動支援に関するニーズの評価—関西地区 FD 連絡協議会 FD 実態調査 2012 から—」『京都大学高等教育研究』第 18 号，65-73 頁
- ・大塚雄作 2013.3 「おわりに」田口真奈・出口康夫・高等教育研究開発推進センター（編）『未来の大学教員を育てる—京大文学部・プレ FD の挑戦』勁草書房，239-243 頁

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「教育評価の基礎」（後期）
- ・「ライフサイクルと教育」（前期；松下佳代・大塚雄作・田口真奈）

②学部教育

- ・「教育心理尺度開発演習」（前期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A」（前期）
- ・「高等教育論演習ⅡA」（前期）
- ・「高等教育開発論研究 B」（後期）
- ・「高等教育論演習ⅡB」（後期）

【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻（修士課程）通信教育課程非常勤講師「高等教育研究調査法」
- ・早稲田大学教職大学院「学力調査・評価の方法と活用」（集中講義：8/22～24）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員
- ・京都大学大学評価委員会 委員
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員

【社会活動】

- ・日本教育心理学会、理事
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構、学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構、大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・最高裁判所、家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO/TC232（人材育成と非公式教育サービス）国内審議委員会委員
- ・電通育英会、奨学生選考委員
- ・財団法人短期大学基準協会評議員
- ・大学教育学会、理事
- ・高等教育質保証学会、評議員
- ・日本高等教育学会、理事
- ・大阪市立大学都市健康・スポーツ研究センター、外部評価委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・大塚雄作 2012.4.27 「大学評価とFDの課題—学生の学びの実質化に向けて—」創価大学
- ・大塚雄作 2012.6.27 「授業改善とは何か—学問学習共同体の形成に向けて—」九州大学大学院人間環境学研究院
- ・大塚雄作 2012.8.7 「大学で教えるということ」大学院生のための教育実践講座2012「～大学でどう教えるか～セッション8 ミニ講義3」京都大学
- ・大塚雄作 2012.8.31 「学びを考える認知理論概説」富山高等専門学校
- ・大塚雄作 2012.9.1 「授業改善の実践—学習共同体の形成に向けて—」奈良県立医科大学
- ・大塚雄作 2012.9.7 「学習評価・教育評価の現在」京都大学新任教員教育セミナー、セッション5・グループ討論：「京大でどう教え、指導するか」京都大学
- ・大塚雄作 2012.9.27 「教育評価と大学入試 第3回多次元入試研究会」京都大学教育学研究科
- ・大塚雄作 2012.10.6 「主体的学びをもたらす教育とは—大学教育改草地域フォーラム2012」京都華頂大学
- ・大塚雄作 2012.10.19 「『授業改善』を改めて問う—『主体的学び』答申を超えて—」兵庫県立大学工学部
- ・大塚雄作 2012.12.17 「京都大学のプレFD & 新任教員研修 PFFP (Preparing Future Faculty Program) 研究会」京都大学東京オフィス
- ・大塚雄作 2013.1.27 「FDネットワーク形成のこれまでとこれから—相互研修型FD拠点形成2008～2012—」国際シンポジウム「ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えるの相互進化を持続させる—」京都大学
- ・大塚雄作 2013.1.25 「主体的な学びと大学教育の質的転換—中教審答申と教育実践の現実の狭間で—」大阪工業大学
- ・大塚雄作 2013.2.9 「主体的学びをもたらす高等教育とは？—ネットワークが作り出す学びの場とその意義—」シンポジウム「はたらくための学習（社会）をデザインする」京都キャンパスプラザ

松下 佳代（教授）

1. 研究業績

【著書】

(分担執筆)

- ・松下佳代 2012.9 「学校は、なぜこんなにも評価まみれなのか—教育のグローバル化とPISAの果たした役割—」グループ・ディダクティカ編『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房、23-45頁
- ・平山朋子・松下佳代・西村敦 2012.11 「理学療法学を主体的に学ぶ—『OSCEリフレクション法』の試み—」小田隆治・杉原真晃編著『学生主体型授業の冒険2—予測困難な時代に挑む大学教育—』ナカニシヤ出版、202-221頁
- ・松下佳代 2013.3 「日本の大学教員養成システムとOD問題」田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『未来の大学教員を育てる—京大文学部・プレFDの挑戦—』勁草書房、67-81頁

- ・田口真奈・松下佳代 2013.3 「ブレ FD とは何か」田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『未来の大学教員を育てる—京大文学部・ブレ FD の挑戦—』勁草書房、83-97 頁
- ・松下佳代・田川千尋・坂本尚志 2013.3 「イントロダクション—ライティングを指導するということ—」関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』ミネルヴァ書房、1-8 頁

【論文】

- ・松下佳代・坂本尚志・小野和宏・高橋雄介・平山朋子・関田一彦 2012.11 「学習成果の直接評価に向けて—パフォーマンス評価の可能性—」『大学教育学会誌』第 34 巻第 2 号、86-89 頁
- ・松下佳代 2012.12 「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」『京都大学高等教育研究』第 18 号、75-114 頁

【その他の著作物】

（報告書）

- ・松下佳代 2012.5 「学習の質を評価する—パフォーマンス評価の考え方と方法—」創価大学学士課程教育機構『The Journal of Learner-Centered Higher Education』第 1 号、63-80 頁
- ・松下佳代 2012.11 『学習の質をどう評価するか—医療教育におけるパフォーマンス評価を中心に—』第 8 回北里大学高等教育開発センター講演会報告書（高等教育開発センター叢書 FD・SD シリーズ Vol. 9）.
- ・坂本尚志・田川千尋・田口真奈・松下佳代 2013.1 「文学研究科ブレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型 FD 拠点活動報告 2012』40-45 頁
- ・高橋雄介・松下佳代 2013.1 「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」同上、63-74 頁
- ・松下佳代・田口真奈 2013.1 「新任教員教育セミナー 2012」同上、104-121 頁
- ・松下佳代・坂本尚志・田川千尋 2013.1 「FD 連携企画ワーキンググループ」同上、186-190 頁
- ・田川千尋・高橋雄介・飯吉透・松下佳代 2013.1 「ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化」同上、312-313 頁
- ・高橋雄介・田川千尋・飯吉透・松下佳代 2013.1 「ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる—」同上、346 頁
- ・松下佳代・飯吉透・田口真奈・大山牧子・畑野快 2013.1 「アメリカ訪問調査報告」同上、348-363 頁
- ・松下佳代 2013.1 「学士課程教育における〈新しい能力〉」『日本私立大学協会 平成 24 年度第 50 回大学教務部課長相当者研修会報告書』73-93 頁

【学会発表】

- ・小野和宏・井上誠・山村健介・西山秀昌・八木稔・ステガロユ=ロクサーナ・重谷佳見・前田健康・高橋雄介・松下佳代 2012.7.20 「大学学習法へのパフォーマンス評価の導入」第 31 回日本歯科医学教育学会学術大会、岡山コンベンションセンター
- ・松下佳代 2012.5.26 「質的評価としてのパフォーマンス評価—その起源と理論—」（ラウンドテーブル「学習成果の直接評価に向けて—パフォーマンス評価の可能性—」）大学教育学会第 34 回大会、北海道大学
- ・松下佳代 2012.10.6 「教育実践／研究の持続可能性の条件—大学でのアクション・リサーチを事例に—」（公開シンポジウム「教育実践研究の持続可能性を問う」）日本教育方法学会第 48 回大会、福井大学
- ・松下佳代 2012.10.7 「評価は教員の資質能力の向上につながるか—国際的動向と他分野での試みから—」（ラウンドテーブル「資質能力向上」をめぐる動向と教師の授業力量—教育方法学は何をすべきか—）日本教育方法学会第 48 回大会、福井大学
- ・松下佳代 2012.10.10 「アクティブで深い学びのための仕組み」（第 84 回公開研究会「ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化」）京都大学百周年時計台記念館
- ・松下佳代 2012.11.4 「〈新しい能力〉は学びを深めるか？—OECD のキー・コンピテンシーを中心に—」（大会企画「技と学び—美術教育の未来へ向けて—」）美術教育研究会第 18 回大会、東京藝術大学
- ・松下佳代 2012.11.11 「大学教育におけるパフォーマンス評価の可能性と課題—真正性とシミュレーションに焦

点をあてて—」教育目標・評価学会第23回大会、東洋大学

- ・松下佳代 2013.1.27 「学習ツールとしての学習評価—組織的なパフォーマンス評価の取組を事例として—」(文部科学省特別経費プロジェクト総括シンポジウム「ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる—」) 京都大学
- ・松下佳代・高橋雄介・坂本尚志・田川千尋・田口真奈・平山朋子・大山牧子・畑野快・蔣妍・羽山裕子・山本はるか・斉藤有吾・蒲雲菲 2013.3.14 「VALUE ルーブリックの意義と課題—基準とレベルの分析を通して—」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学
- ・松下佳代 2013.3.15 「活動理論にもとづく教育実践のデザイン—理論編—」(参加者企画セッション「学習理論にもとづく教育実践のデザイン—活動理論と学習科学のアプローチから—」) 第19回大学教育研究フォーラム、京都大学
- ・平山朋子・松下佳代・西村敦・堀寛史 2013.3.15 「深い学びを促進するパフォーマンス評価—理学療法教育における「考える OSCE-R」の開発と実施—」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「ライフサイクルと教育」(前期)
- ・「学力・学校・社会」(後期)

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)
- ・「高等教育方法演習ⅢA・B」(教育学研究科、前・後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・女性研究者支援センター ワーキンググループ事業推進員
- ・FD 研究検討委員会 第2 WG メンバー

【社会活動】

- ・日本教育学会理事、機関誌編集副委員長
- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事、国際委員会委員
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・学校図書算数教科書著作者
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員
- ・文部科学省 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会委員
- ・特別研究員等審査会専門委員

【FD 関係】

- ・松下佳代 2012.6.23 「学習の質の評価について—パフォーマンス評価を中心に—」New Education Expo 2012、大阪マーチャンダイズ・マート
- ・松下佳代 2012.7.28 「学士課程評価の全体像—ジェネリックスキルを評価するための視点—」河合塾 PROG セミナー 2012「今、大学教育に求められるジェネリックスキル—大学の事例からみえてくる育成と評価のポイント—」リクルート GINZA8 ビル
- ・松下佳代 2012.7.13 「学習の質をどう評価するか—医療教育におけるパフォーマンス評価を中心に—」第8回北里大学高等教育開発センター講演会、北里大学相模原キャンパス

- ・松下佳代 2012.9.3 「学習の質の評価—パフォーマンス評価とルーブリック—」F レックス第3回FD合宿研修会、仁愛女子短期大学
- ・松下佳代 2012.10.3 「ディープ・アクティブラーニングと自立させるカリキュラムづくり」「学生の自立を促す教育」のための調査及び研究プロジェクト第2回勉強会、武庫川女子大学
- ・松下佳代 2012.10.18 「学士課程教育における〈新しい能力〉」第50回日本私立大学協会大学教務部課長相当者研修会、神戸ポートピアホテル
- ・松下佳代 2012.11.16 「大学における学習評価の全体像—パフォーマンス評価を中心に—」高大接続教育研究会、キャンパスプラザ京都
- ・松下佳代 2013.2.10 「大学における学習成果の評価の動向」高等教育政策部会・教文部会合同研究会、全国大学高専教職員組合
- ・松下佳代 2012.12.21 「学習成果の基礎と最近の動向—学習成果をどう評価するか?—」歯学部FD委員会主催新潟大学組織的教育プロジェクトFDワークショップ、新潟大学
- ・小野和宏・前田健康・松下佳代 2013.3.4 「高次な能力を読み解く新しい評価方法の開発—学習成果を把握して主専攻プログラムを改善する—」平成24年度新潟大学組織的教育プロジェクト成果報告

【その他】

- ・松下佳代 2012.7.2 「パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する—」熊本県立教育センター
- ・松下佳代 2013.1.21 「〈新しい能力〉と学習評価の枠組み」育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会（第2回）、文部科学省
- ・松下佳代 2013.3.18 「〈新しい能力〉は教育を変えるか—リテラシーとコンピテンシー—」「PISAの数学的リテラシー論の分析と日本の数学教育への批判的摂取についての研究」第5回研究会、京都大学

飯吉 透（教授）

1. 研究業績

【著書など】

- ・飯吉透 2013.1 「オープンエデュケーションの新たな潮流とMOOCの衝撃—上—」教育学術新聞2511号
- ・飯吉透 2013.2 「オープンエデュケーションの新たな潮流とMOOCの衝撃—下—」教育学術新聞2512号

【学会発表】

- ・飯吉透・酒井博之・田口真奈 2013.3.14 「教育改善のための教員コミュニティ形成—MOSTフェローシッププログラム」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動

【学内・学外】

①全学共通教育

- ・ポケットゼミ「オープンエデュケーション入門」（前期）
- ・KUINEP「The World of Open Education」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育システム演習A・B」（教育学研究科、前・後期）
- ・「高等教育論開発論研究A・B」（教育学研究科、前・後期）
- ・「大学で教えるということ」（研究科横断講義）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・大学院教育学研究科 学生委員
- ・FD研究検討委員会 第2WGメンバー

【社会活動】

- ・北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター 客員教授
- ・私学高等教育研究所 客員研究員
- ・日米研究インスティテュート 運営アドバイザー

【講演】

- ・飯吉透 2012.5.18 「大学とグローバル人材育成」明治大学国際教育研究所開設記念国際シンポジウム「グローバル人材を測る物差しを考える」、明治大学
- ・飯吉透 2012.6.23 「グローバル時代における組織的な大学教育改善とリーダーシップ」京都 FD 執行部塾、大学コンソーシアム京都
- ・飯吉透 2012.7.7 「高等教育におけるリーダーシップと大学教育の進展—カーネギー財団と MIT での経験を踏まえて—」基調講演、大学マネジメント研究会
- ・飯吉透 2012.7.13 「なぜ日本の学生の学修時間は短いのか—「教えと学びの文化」の観点から—」大学教育改革地域フォーラム、明治大学
- ・飯吉透 2012.8.1 「オープンエデュケーションと教育の未来」科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 講義、北海道大高等教育推進機構
- ・飯吉透 2012.8.4 「オープンエデュケーションが変える日本の大学教育」PC カンファレンス 2012 基調講演、CIEC・全国大学生生活協同組合連合会・京都大学
- ・飯吉透 2012.8.7 「大学授業の現在と未来」大学院生のための教育実践講座、京都大学
- ・飯吉透 2012.9.8 「アメリカの教育研究環境紹介と京大生協への期待」京都大学生生活協同組合職員セミナー、京都大学
- ・飯吉透 2012.9.10 「21 世紀の高等教育を展望する—グローバル化、情報化、オープン化を巡って—」第 3 回 FD 講演会、関西外国語大学
- ・飯吉透 2012.9.12 「学業・成績評価の国際標準と通用性」京都大学全学教育シンポジウム、京都大学
- ・飯吉透 2012.9.20 「大学教育の現在と未来：学内外の視点から」京都大学文学研究科 FD 研修会、京都大学
- ・飯吉透 2012.9.28 「進化する大学教育：国内外の視点から」京都府立大学 FD 講演会、京都府立大学
- ・飯吉透 2012.10.10 「教育イノベーションの育成と普及」(“Fostering and Diffusing Educational Innovation”) 第 84 回京都大学高等教育研究開発推進センター公開研究会、京都大学
- ・飯吉透 2012.10.29 「教育イノベーションとしてのオープンエデュケーション—開革される人材育成とその先にある未来—」近未来教育フォーラム 2012 基調講演、デジタルハリウッド大学
- ・飯吉透 2012.11.30 「教育イノベーションとしてのオープンエデュケーションの可能性」京都大学医学研究科社会健康医学系 FD ワークショップ、京都大学
- ・飯吉透 2012.12.8 「オープンエデュケーションと日本の大学教育の展望」CCC-TIES シンポジウム基調講演、大阪大学
- ・Iiyoshi, T. 2012.12.15 “Building Capacity to Make Pedagogical Innovations Sharable, Adaptable, and Sustainable,” International Asia-Pacific Conference on Peer Instruction, Beijing Normal University, China
- ・飯吉透 2012.12.18 「来るべき高等教育の世界—HAL・VALIS・SOLARIS を越えて—」日本 IBM 創立 75 周年記念講演会、京都大学
- ・飯吉透 2013.1.27 「日本の大学教育の課題と可能性—米国の比較という観点から—」(“Challenges and Possibilities in Japan’s Higher Education: In Comparison with the United States”) 文部科学省特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」プロジェクト総括シンポジウム、京都大学
- ・飯吉透 2013.2.27 「オープンエデュケーションと高等教育のグローバル化」大学教育のグローバル化に対応した FD 支援事業「グローバル化する大学教育における FD の課題と展望」国際シンポジウム基調講演、大阪大学全学教育推進機構・国際教育交流センター・サイバーメディアセンター、大阪大学
- ・飯吉透 2013.2.29 「教育イノベーションとしてのオープンエデュケーションの可能性」統計教育大学間連携・統計教育ワークショップ、学習院大学

- ・飯吉透 2013.3.6 「日本の大学院教育・大学院生の課題と挑戦：在外経験を通して考える」大学院教育改革セミナー 2013「大学院教育で育む知的たくましさーグローバル化時代のリーダーに求められるものー」北陸科学技術先端大学院大学（東京サテライトキャンパス）
- ・飯吉透 2013.3.11 「来るべき高等教育の世界ーオープンエデュケーションを越えてー」第21回熊本大学eラーニング連続セミナー、熊本大学eラーニング推進機構

【その他】

- ・飯吉透 2012.6.2 「教育におけるナレッジマネジメントとICTー個人と組織のグローバルな成長を目指してー」（パネルディスカッション）第10回 manaba セミナー、東京
- ・飯吉透 2012.10.5 「Innovation in International Education and Collaboration: Lessons and Implications from the U.S. and Japan」（パネルディスカッション）第11回 manaba セミナー、京都

溝上 慎一（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2012.9 「事例①【国立大学事例】」京都大学 日本リメディアル教育学会（監修）『大学における学習支援への挑戦ーリメディアル教育の現状と課題ー』ナカニシヤ出版, 120-121 頁
- ・溝上慎一 2012.12 「自我心理学・自己心理学」見田宗介（顧問）・大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一（編）『現代社会学事典』弘文堂, 510-519 頁
- ・Sugimura, K., & Mizokami, S. 2012 Winter. Personal identity in Japan. In S. J. Schwartz (Ed.), Identity around the world. New Directions for Child and Adolescent Development, No. 138. (pp. 123-143). San Francisco: Jossey-Bass.

【論文】

- ・河井亨・溝上慎一 2012.5 「授業外学習を行う実践コミュニティに参加する学生はどのような学生か」『大学教育学会誌』34 巻 1 号, 71-79 頁
- ・溝上慎一 2012.6 「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいかー自己の分権的力学からの示唆ー」『心理学評論』55 巻 1 号, 156-173 頁
- ・溝上慎一・中原淳・館野泰一・木村充 2012.11 「仕事のパフォーマンスと能力業績に及ぼす学習・生活の影響ー学校から仕事へのトランジション研究に向けてー」『大学教育学会誌』34 巻 2 号, 139-148 頁
- ・河井亨・溝上慎一 2012.12 「学習を架橋するラーニング・ブリッジングについての分析ー学習アプローチ、将来と日常の接続との関連に着目してー」『日本教育工学会論文誌』36 巻 3 号, 217-226 頁
- ・溝上慎一 2013.2 「自己形成を促進させる自己形成モードの研究ー小平英志氏・谷冬彦氏のコメントに対するリプライー」『青年心理学研究』24 巻, 215-220 頁

【その他の著作物】

- ・溝上慎一 2012.12 「書評：島田博司著『学びを共有する大学授業ーライフスキルの育成ー』」『IDE（現代の高等教育）』2012 年 12 月号, 70-71 頁
- ・溝上慎一 2012.12 「大学生タイプと学習支援と生活支援」『IDE（現代の高等教育）』2012 年 12 月号, 23-29 頁
- ・溝上慎一 2012.12 「大学生活の重点・授業出席・朝食摂取の観点から」全国大学生生活協同組合連合会 広報調査部（編）『バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像「学生生活実態調査をはじめとした調査分析」報告書』18-31 頁

【学会発表】

- ・溝上慎一 2012.9.11 「青年心理学者にとっての『大人になる』『成熟』の力学」岡田努企画 自主 WS「現代青年の成熟とは何か」『日本心理学会第76回大会発表論文集』20 頁、専修大学
- ・Mizokami, S., & Nakama, R. 2012.10 There are as many views of the self as the self and mes. Poster presented at the 7th International Conference on the Dialogical Self. 2012, October 26, USA: the University of Georgia
- ・溝上慎一 2012.11.24 「指定討論」田島充士・中村直人企画自主シンポジウム「学校インターンシップの可能性を問うー「越境の知をはぐくむー」」日本教育心理学会第54回総会、琉球大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「自己形成の心理学」(前期)
- ・「現代青年期の心理学」(前期)
- ・「心理学概論 B」(後期)

② KUINEP

- ・「University and University Student I Today's Japan」(前期)
- ・「Self Formation in Adolescence」(後期)

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(前期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ FD 研究検討委員会
- ・ 教育制度委員会・全学共通教育システム委員会合同 WG 委員会委員
- ・ 吉田キャンパス整備専門委員会
- ・ 教育学研究科教務委員

【社会活動】

- ・ 日本青年心理学会理事
- ・ 日本発達心理学会理事
- ・ 大学教育学会常任理事
- ・ 日本心理学会地域別代議員 (近畿)
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・ 日本発達心理学会『発達心理学研究』編集委員
- ・ 日本教育心理学会『教育心理学研究』常任編集委員
- ・ International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・ Journal of Adolescence、Editorial Board 委員
- ・ 電通育英会大学生調査プロジェクトアドバイザー (2007 年 8 月～)
- ・ 大阪府立大学高等教育推進機構学長補佐
- ・ 北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
- ・ 中国・四国地域人材育成事業島根大学外部評価委員会委員
- ・ 東北大学加齢医学研究所共同研究員 (2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)
- ・ 学校法人河合塾・新学力プログラムプロジェクト「教育プロジェクトの設計およびそのための調査・研究」業務委託 (2012 年 6 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

【講演】

- ・ 溝上慎一 2012.7.14 「大人数講義におけるアクティブラーニング型授業 (ピアインストラクション) の開発」河合塾 PROG セミナー 2012 講演 (大阪会場)
- ・ 溝上慎一 2012.7.27 「将来の目標を持って勉強する一大学に入れば何とかなるの時代は終わりー」三重県立津高等学校大学模擬授業
- ・ 溝上慎一 2012.7.30 「知にこだわった大学のアクティブラーニング型授業」日本獣医生命科学大学講演
- ・ 溝上慎一 2012.8.4 「学びに関連して見えてくる大学生の現状と成長支援」PC カンファレンス 2012 基調講演
- ・ 溝上慎一 2012.8.5 「本日のまとめー12 年間のアクティブラーニングー」産業能率大学第 6 回キャリア教育推進

フォーラム

- ・溝上慎一 2012.8.6 「授業外学習時間とアクティブラーニング—中教審審議まとめをふまえて—」産業能率大学 FD 研修
- ・溝上慎一 2012.8.19 「学校教育の経験は仕事にどのように影響を及ぼしているか—学校から仕事へのトランジション調査 2012 中間報告—」大学生研究フォーラム 2012（京都大学・東京大学・電通英会共催）企画・報告
- ・溝上慎一 2012.8.22 「学生の反応・理解が見えるアクティブラーニングの授業づくり！—クリッカーを用いたピアインストラクションの体験」独立行政法人国立病院機構 本部東海北陸ブロック事務所 看護教員実務研修（Ⅰ）講師
- ・溝上慎一 2012.8.23 「アクティブラーニング型授業の展開」SPOD フォーラム 2012 シンポジウム報告
- ・溝上慎一 2012.8.24 「データから考える学生の自立支援」大学生協全国教職員セミナー 2012 全体会シンポジウム・パネリスト
- ・溝上慎一 2012.8.31 「高いキャリア意識が学習を促し、就業パフォーマンスを規定する」第 62 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会
- ・溝上慎一 2012.9.20 「自己形成の心理学—他者とつながれないと自己は形成されない、なぜ？」三重県立伊勢高等学校出前講義
- ・溝上慎一 2012.11.5 大学生協連「バブル崩壊後の変容と現代学生像を求めて」シンポジウム「バブル崩壊後の現代大学生の特徴—大学生生活の重点・授業出席・朝食摂取の観点から—」
- ・溝上慎一 2012.11.12 「知にこだわった大学のアクティブラーニング型授業」日本女子大学 FD 委員会主催講演会
- ・溝上慎一 2012.11.13 「学士課程教育の質的転換を目指すためのアクティブラーニング」立教大学全カリシンポジウム基調講演
- ・溝上慎一 2012.11.20 「クリッカーを通してアクティブラーニングの本質を考える—学生が居眠りしなければそれでいいのか！—」大学・高校実践ソリューションセミナー 2012 講演
- ・溝上慎一 2012.12.1 「キャリア教育と学習・大学生活との密接な関連」第 2 回日本キャリアデザイン学会北陸・新潟地区交流会キャリア教育シンポジウム基調講演
- ・溝上慎一 2012.12.10 「TA の活用と初年次ゼミの活性化」金沢大学経済学類教育開発委員会主催第 2 回 FD 集会講演
- ・溝上慎一 2012.12.21 「将来に対する見通しが大学生の学びと成長に与える影響—高校でのキャリア教育への期待—」京都市教育委員会主催教員研修会：高等学校教育実践講座②
- ・溝上慎一 2013.1.17 「職業と学び—キャリアデザインを考える—」講師「意識の高い日々の過ごし方（大学生生活）が将来を決める」神戸大学全学キャリア科目
- ・溝上慎一 2013.1.22 「なぜアクティブラーニングなのか—実践方法と最先端課題—」平成 24 年度佐賀大学第 1 回 FD・SD フォーラム講演
- ・溝上慎一 2013.1.23 「将来を見据えつつも、できるだけ日常の一つひとつの課題を丁寧に」広島県立廿日市高等学校講演
- ・溝上慎一 2013.1.27 「学生の学びと成長研究・実践の総括」京都大学高等教育研究開発推進センター第 85 回公開研究会／文部科学省特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」プロジェクト総括シンポジウム報告
- ・溝上慎一 2013.2.11 「授業（大学教育）と産業界をつなぐアクティブラーニング—クリッカーを用いてのピアインストラクションの紹介—」第 1 回北陸地区大学・短大「連携 FD」研修会講師
- ・溝上慎一 2013.2.20 「現代大学生を取り巻く状況と大学生協への期待」全国大学生協連 2013 年組合員活動研修セミナー講演
- ・溝上慎一 2013.2.27 「クリッカーを通してアクティブラーニングの本質を考える」日本文理大学平成 24 年度後期 FD 研修会講演

【その他】

(新聞・雑誌)

- ・溝上慎一 2012.7 「大学での将来意識が『仕事』とどう関わるのか」『学研・進学情報』2012年7月号
- ・溝上慎一 2012.6.4 「授業で企業の課題解決／『実践教育』学習意欲を向上」『日本経済新聞』
- ・溝上慎一 2012.11.1 「協同が育む学生の自立」全国大学生協連：全国教職員セミナー全体会シンポジウム、全国大学生生活協同組合連合会『UNIV.CO-OP』No. 389
- ・溝上慎一 2012.11.6 「大学生協連シンポ：最近の学生 質素勤勉？」『東京新聞』
- ・溝上慎一 2013.2.13 「Kyoto University Academic Talk—アクティブラーニングとこれからの教育—」FM 京都 α -Station 出演
- ・溝上慎一 2013.3 「大学生生活の重点・授業出席・朝食摂取の観点から」全国大学生生活協同組合連合会『CampusLife』Vol. 34
- ・溝上慎一 2013.3.19 「どんな高2が将来デキる社会人？—就職後3年まで追跡 京大・河合塾調査」『朝日新聞』
- ・溝上慎一 2013.3.23 「高校での学び、将来にどう影響 2年生6万人を追跡調査—高大接続やキャリア教育資料に」『京都新聞』
- ・溝上慎一 2013.3.29 「勉強も遊びもバイトも満喫—『学生生活が充実』9割迫る」『朝日新聞』

田口 真奈 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・田口真奈 2012.10 「大学教育改革と授業研究」『授業研究と教育工学』ミネルヴァ書房、123-168頁
- ・田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編著 2013.3 『未来の大学教員を育てる—京大文学部・プレFDの挑戦』勁草書房

【論文】 査読有

- ・酒井博之・田口真奈 2012.7 「大学教員のためのコースポートフォリオ実践プログラムの開発」『日本教育工学会論文誌』第36号第1号、35-44頁
- ・田口真奈・半澤礼之・杉原真晃・村上正行 2012.12 「若手FD担当者の業務に対する『やりがい』と『不安』—他部局との連携とキャリア展望の観点から—」『日本教育工学会論文誌』第36号第3号、327-337頁

【その他の著作物】

(報告書)

- ・坂本尚志・田川千尋・田口真奈・松下佳代 2013.1 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型FD拠点活動報告2012』40-62頁
- ・松下佳代・田口真奈 2013.1 「新任教員教育セミナー」同上、104-121頁
- ・田口真奈 2013.1 「FD共同実施ワーキンググループ」同上、179-185頁
- ・村上正行・杉原真晃・田口真奈・半澤礼之 2013.1 「若手FD研究者ネットワーク (JFDN Jr.)」同上、301-306頁
- ・田口真奈・飯吉透 2013.1 「ISSOTL 2012 参加報告」同上、307-311頁
- ・松下佳代・飯吉透・田口真奈・大山牧子・畑野快 2013.1 「アメリカ訪問調査報告」同上、348-363頁

【学会発表】

- ・大山牧子・田口真奈 2012.9.15 「大学の講義型授業における学生の学習を踏まえた教員の省察—コンセプトマップによる学生の理解の可視化を通して—」日本教育工学会第28回全国大会、長崎大学
- ・酒井博之・大山牧子・田口真奈 2012.9.16 「カリキュラム改善を志向したコースポートフォリオ実践プログラムの拡張」日本教育工学会第28回全国大会、長崎大学
- ・田口真奈・酒井博之・大山牧子・藪厚生・金田忠裕・土井智晴 2013.3.2 「カリキュラム改善を目指したコースポートフォリオの作成・共有の試み—大阪府立大学高専メカトロニクスコースを事例として—」日本教育工学会研究会、三重大学

- ・田口真奈ほか 2013.3.15 「博士課程学生がすすめる＜FD＞」参加者企画セッション「指定討論 第19回大学教育研究フォーラム」京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育
 - ・「ライフサイクルと教育」（前期分担）
- ②大学院教育
 - ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期）
 - ・「高等教育文献講読演習 A」（教育学研究科、前期）
- ③大学院教育
 - ・研究科横断型プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科・後期）

3. その他活動

【学内委員】

京都大学教育学研究科・教務委員

【講演】

- ・田口真奈 2012.7.4 「ディープラーニング／アクティブラーニングと自立させる授業づくり」「学生の自立を促す教育」のための調査及び研究プロジェクト第1回勉強会、武庫川女子大学
- ・田口真奈 2013.2.20 「大学教育における授業研究」2012年度若手FD研究者ネットワーク研究会、京都外国語大学
- ・田口真奈 2013.2.22 「京都大学のプレFD」京都大学高等教育研究開発推進センター・東京大学大学総合教育研究センター共催事業「未来の大学教員を育てるーブレFDの挑戦」東京大学
- ・田口真奈 2013.2.26 「コースポートフォリオが開く大学の未来」金沢大学学校教育学類FD研修会、金沢大学
- ・飯吉透・田口真奈・酒井博之 2013.3.14 「教育改善のための大学教員コミュニティ形成ーMOSTフェローシッププログラムー」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学

酒井 博之（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・酒井博之・田口真奈 2012.7 「大学教員のためのコースポートフォリオ実践プログラムの開発」『日本教育工学会論文誌』36巻1号、35-44頁

【その他の著作物】

（報告書）

- ・酒井博之 2012.6 「ティーチングポートフォリオの組織的導入と活用（第2分科会）」『第17回FDフォーラム報告集』大学コンソーシアム京都、207-234頁
- ・酒井博之 2012.7 「関西地区FD連絡協議会第5回総会『FD活動報告会2012』」関西地区FD連絡協議会広報ワーキンググループ編（編集責任者）
- ・酒井博之 2013.1 「『FD活動の報告会』（ポスターセッション）」『京都大学高等教育叢書32（「相互研修型FD拠点活動報告2012」：平成24年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」平成24年度教育関係共同利用拠点「相互研修型FD共同利用拠点」）』174-178頁
- ・酒井博之 2013.1 「広報ワーキンググループ」同上、191-193頁
- ・酒井博之 2013.1 「MOST」同上、205-215頁

【学会発表】

- ・酒井博之・大山牧子・田口真奈 2012.9 「カリキュラム改善を志向したコースポートフォリオ実践プログラムの

拡張」日本教育工学会第28回全国大会講演論文集、591-592頁、長崎大学

- ・田口真奈・酒井博之・大山牧子・藪厚生・金田忠裕・土井智晴 2013.3 「カリキュラム改善を目指したコースポートフォリオの作成・共有の試み—大阪府立大学高専メカトロニクスコースを事例として—」日本教育工学会研究報告集、JSET13-1、153-160頁、三重大学
- ・酒井博之 2013.3 「京都大学におけるポートフォリオ情報環境戦略の開発と実装（参加者企画セッション、話題提供）」第19回大学教育研究フォーラム、258-259頁、京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「音響心理学概論」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科、前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員
- ・FD 研究検討委員会（WG1 メンバー）

【社会活動】

- ・関西地区 FD 連絡協議会 広報ワーキンググループ
- ・日本教育工学会 研究会委員会委員

【講演】

- ・酒井博之 2012.8.31 「大学教育改善のための e ポートフォリオの活用（特別講演）」、ポートフォリオの活用による高等教育の活性化、大阪府立大学
- ・飯吉透・酒井博之・田口真奈 2013.3.14 「教育改善のための教員コミュニティ形成—MOST フェローシッププログラム—」第19回大学教育研究フォーラム小講演、京都大学

【その他】

- ・酒井博之 2013.1.27 「大学教育実践の可視化・共有化による FD ネットワーク形成（報告2）」、文部科学省特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」プロジェクト総括シンポジウム、「ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる—」、京都大学
- ・酒井博之 2013.2.24 「コースポートフォリオの組織レベルにおける適用」ティーチング・ポートフォリオの組織的導入と活用（第9分科会、話題提供）、第18回 FD フォーラム、大学コンソーシアム京都、立命館大学

半澤 礼之（特定助教）（2012 年 4 月～2012 年 9 月）

1. 研究業績

【著書】

- ・半澤礼之 2012.9 第6章「入学したら何をすべきか」若松養亮・下村英雄（編）『詳解 大学生のキャリアガイダンス論』金子書房、74-89頁

2. 教育活動

【学外】

- ・武庫川女子大学（児童青年心理学）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・大学コンソーシアム京都、FD フォーラム企画検討委員（2012.4～9）
- ・日本キャリア教育学会第34回研究大会、準備委員

【その他】

- ・半澤礼之 2012.5.19 「共同実施 WG 初任教員向けプログラム」関西地区 FD 連絡協議会第5回総会（FD 活動の報告会）ポスター発表、京都大学
- ・半澤礼之 2012.8.7 「大学授業の現場から」大学院生のための教育実践講座 2012 Basic コース ミニ講義 講師、京都大学

田川 千尋（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

（共編著）

- ・松下佳代・田川千尋・坂本尚志 2013.3 「イントロダクション—ライティングを指導するということ—」関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるためのライティング指導のヒント』ミネルヴァ書房、1-8 頁
- ・田川千尋 2013.3 「巻末資料 2 関西地区 FD 連絡協議会・FD 連携企画 WG シンポジウム・ワークショップ（2008 年度～2011 年度）の概要」関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編『思考し表現する学生を育てるためのライティング指導のヒント』ミネルヴァ書房、1-8 頁

（分担執筆）

- ・坂本尚志・田川千尋 2013.3 「用語解説」田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『未来の大学教員を育てる—京大文学部・プレ FD の挑戦』勁草書房、256-260 頁

【その他の著作物】

- ・坂本尚志・田川千尋・田口真奈・松下佳代 2013.1 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型 FD 拠点活動報告 2012』30-62 頁
- ・松下佳代・坂本尚志・田川千尋 2013.1 「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型 FD 拠点活動報告 2012』186-190 頁
- ・田川千尋・高橋雄介・飯吉透・松下佳代 2013.1 「ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化（Deepening Active Learning with Peer Instruction）」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型 FD 拠点活動報告 2012』312-345 頁
- ・高橋雄介・田川千尋・飯吉透・松下佳代 2013.1 「ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる—（Advancement of Higher Education in the Network Age: Sustaining the Mutual Evolution of Learning and Teaching）」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型 FD 拠点活動報告 2012』346-347 頁

【報告書】

- ・大場淳・田川千尋 2012.11 「諸外国の大学の教学ガバナンスに関する調査—米国・英国・フランス—」文部科学省先導的大学改革推進委託事業（平成 23-24 年度 広島大学高等教育研究センター 研究代表者 大場淳）、フランス調査・執筆担当

【学会発表】

- ・田川千尋 2012.6.16 「大学教育課程の職業化（Professionnalisation）の現在—アラン・ルノーの大学論をめぐって—」日本比較教育学会第 48 回大会、九州大学
- ・田川千尋 2012.9.8 「学生の学び（支援）に関する政策の特徴と研究課題がいかなるものか—学生支援の立場から—」（シンポジウム「フランスにおける学生の学びを考える—歴史、国際比較、学生支援の観点から—」）フランス教育学会第 30 回大会、名古屋大学

- ・松下佳代・高橋雄介・坂本尚志・田川千尋・田口真奈 2013.3.14-15 「VALUE ルーブリックの意義と課題—規準とレベルの分析を通して—」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学

3. その他の活動

【学外委員】

- ・文科省先導委託事業・教学ガバナンス調査委員（フランス担当）

高橋 雄介（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

- ・高橋雄介 2013.3 「気質とパーソナリティ」日本パーソナリティ心理学会監修『パーソナリティ心理学ハンドブック』（第3章第2節），福村出版，78-84 頁
- ・高橋雄介 2012.9 「縦断データの分析 I—変化についてのマルチレベルモデリング」（第4章第2節，第5章第1節，第5章第2節），菅原ますみ・監訳，朝倉書店
- ・高橋雄介 2012.4 「パーソナリティの遺伝子探し」鈴木公啓編著『パーソナリティ心理学概論—性格理解への扉—』第4章コラム，ナカニシヤ出版

【論文】

- ・Takahashi, Y., Edmonds, G. W., Jackson, J. J., & Roberts, B. W. 2013. Longitudinal correlated changes in conscientiousness, preventative health-related behaviors, and self-perceived physical health. *Journal of Personality*, **81** (pp. 417-427)
- ・Moriya, J. & Takahashi, Y. 2013. Depression and interpersonal stress: The mediating role of emotion regulation. *Motivation and Emotion*, **37** (pp. 600-608)
- ・Ando, J. Fujisawa, K. K., Shikishima, C., Hiraishi, K., Nozaki, M., Yamagata, S., Takahashi, Y., Ozaki, K., Suzuki, K., Deno, M., Sasaki, S., Toda, T., Kobayashi, K., Sugimoto, Y., Okada, M., Kijima, N., Ono, Y., Yoshimura, K., Kakihana, S., Maekawa, H., Kamakura, T., Nonaka, K., Kato, N., & Ooki, S. 2013. Two Cohort and Three Independent Anonymous Twin Projects at the Keio Twin Research Center (KoTReC). *Twin Research and Human Genetics*, **16** (pp. 202-216)
- ・Yamagata, S., Takahashi, Y., Ozaki, K., Fujisawa, K. K., Nonaka, K., & Ando, J. 2013. Bidirectional influences between maternal parenting and children's peer problems: A longitudinal monozygotic twin difference study. *Developmental Science*, **16** (pp. 249-259)
- ・松下佳代・小野和宏・高橋雄介 2013 「レポート評価におけるルーブリックの開発とその信頼性の検討」『大学教育学会誌』35, 107-115 頁

【その他の著作物】

- ・高橋雄介・大塚雄作・斉藤有吾 2012 「FD 活動支援に関するニーズの評価—関西地区 FD 連絡協議会 FD 実態調査 2012 から—」『京都大学高等教育研究』第18号，65-73 頁
- ・高橋雄介 2013 「Ⅱ-2. 公開授業・検討会」『京都大学高等教育叢書』第32号，38-39 頁
- ・高橋雄介・松下佳代 2013 「Ⅱ-4. 大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」『京都大学高等教育叢書』第32号，63-74 頁
- ・高橋雄介 2013 「Ⅱ-7. PHD Movie 上映会・パネルディスカッション」『京都大学高等教育叢書』第32号，135-138 頁
- ・飯吉透・大塚雄作・高橋雄介 2013 「Ⅲ-6. 研究ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書』第32号，194-198 頁
- ・大塚雄作・高橋雄介 2013 「Ⅳ-4-1. FD ネットワーク代表者会議（JFDN）第4回会議の概要」『京都大学高等教育叢書』第32号，250-300 頁
- ・田川千尋・高橋雄介・飯吉透・松下佳代 2013 「Ⅴ-2-1. ピア・インストラクションによるアクティブラーニングの深化」『京都大学高等教育叢書』第32号，312-345 頁
- ・高橋雄介・田川千尋・飯吉透・松下佳代 2013 「Ⅴ-2-2. ネットワーク時代の大学教育改善—学びと教えの相互進化を持続させる」『京都大学高等教育叢書』第32号，346-347 頁

【学会発表】

- ・ Takahashi, Y., Roberts, B. W., & Hoshino, T. 2012 Conscientiousness mediates the relation between perceived parental socialization of responsibility and self-rated health. 26th Conference of European Health Psychology Society, Prague, Czech Republic. August, 21-25
- ・ Takahashi, Y. 2012 Spousal similarity for personality traits and marital satisfaction. 16th European Conference on Personality, Trieste, Italy, July 10-14
- ・ 松下佳代・高橋雄介・坂本尚志・田川千尋・田口真奈 2013.3.14-15 「VALUE ループリックの意義と課題—規準とレベルの分析を通して—」第19回大学教育研究フォーラム、京都大学
- ・ 高橋雄介 2012.9.11-13 「ウェブ調査法の可能性と限界」ワークショップ「より良い質問紙調査のために：作成から実施まで」（長岡千賀・小山内秀和・鈴木淳子・田辺肇・内田由紀子・高橋雄介 [= 話題提供者]）、日本心理学会第76回大会、専修大学
- ・ 山形伸二・高橋雄介・尾崎幸謙・藤澤啓子・野中浩一・安藤寿康 2012.8.30-31 「親子はどのように相互に影響を与えるか—縦断的一卵性双生児差異法による純粋な因果効果の検討—」数理社会学会 第54回大会、関東学院大学
- ・ 小野和宏・井上誠・山村健介・西山秀昌・八木稔・ステガロコ・ロクサーナ・重谷佳見・前田健康・高橋雄介・松下佳代 2012.7.20-21 「大学学習法へのパフォーマンス評価の導入」第31回日本歯科医学教育学会、岡山コンベンションセンター
- ・ 高橋雄介 2012.5.26-27 「一般化可能性理論を用いたパフォーマンス評価の信頼性の確認、ラウンドテーブル「学習成果の直接評価に向けて—パフォーマンス評価の可能性—」（松下佳代・小野和宏・平山朋子・坂本尚志・関田一彦・高橋雄介 [= 話題提供者]）、大学教育学会第34回大会、北海道大学
- ・ 高橋雄介・星野崇宏 2012.11.23-25 「パーソナリティ特性の変化は健康の変化とどのように関連するか」日本教育心理学会第54回大会、琉球大学
- ・ 出野美那子・山形伸二・藤澤啓子・鈴木国威・高橋雄介・安藤寿康 2012.9.11-13 「就学前後期における不登校傾向への関連要因：保育士・教師とのコミュニケーションとの関連」日本心理学会、専修大学

2. 教育活動

【学内】

- ・「教育心理学講読演習Ⅰ」

【学外】

- ・ 佛教大学 大学院教育学研究科 非常勤講師（心理学統計法特論）
- ・ 佛教大学 教育学部非常勤講師（心理学中級統計法）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 日本パーソナリティ心理学会 機関誌常任編集委員
- ・ 日本パーソナリティ心理学会 国際交流委員

坂本 尚志（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

- ・ 松下佳代・田川千尋・坂本尚志 2013.3 「イントロダクション—ライティングを指導するということ」『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編、ミネルヴァ書房、1-8頁
- ・ 坂本尚志 2013.3 「巻末資料1 「論文の書き方」本から見るライティング指導の位置」『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編、ミネル

ヴァ書房, 239-248 頁

- ・坂本尚志 2013.3 「資料1 京都大学文学部・文学研究科学修の仕組み」『未来の大学教員を育てる 京大文学部・プレFDの挑戦』田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編, 勁草書房, 245-248 頁
- ・坂本尚志 2013.3 「資料2 京都大学文学部・大学院文学研究科の教育の流れ」『未来の大学教員を育てる 京大文学部・プレFDの挑戦』田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編, 勁草書房, 249 頁
- ・坂本尚志・田川千尋 2013.3 「用語解説」『未来の大学教員を育てる 京大文学部・プレFDの挑戦』田口真奈・出口康夫・京都大学高等教育研究開発推進センター編, 勁草書房, 256-2260 頁

【論文】

- ・Takashi Sakamoto 2012.8 “La logique du “reste” chez Michel Foucault: La question de l’histoire et de la littérature” 『フランス語フランス文学研究』101号, 139-155 頁
- ・坂本尚志 2012.12 「バカロレア哲学試験は何を評価しているか?—受験対策参考書からの考察—」『京都大学高等教育研究』第18号, 53-63 頁
- ・坂本尚志 2013.3 「「他者の統治」から「自己の統治」へ—1980年代初頭におけるミシェル・フーコーの思想の変容」『関西フランス語フランス文学』第19号, 27-38 頁

【その他の著作物】

- ・坂本尚志・田川千尋・田口真奈・松下佳代 2013.1 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書 32 相互研修型FD拠点活動報告2012』40-45 頁
- ・坂本尚志 2013.1 「活動成果の概要」同上, 139-145 頁
- ・松下佳代・坂本尚志・田川千尋 2013.1 「FD連携企画ワーキンググループ」同上, 186-190 頁
- ・坂本尚志 2013.1 「広報ワーキンググループ」同上, 191-193 頁

【学会発表】

- ・坂本尚志 2012.5.26 「哲学教育における評価—フランス・バカロレア哲学試験を例に」ラウンドテーブル「学習成果の直接評価に向けて—パフォーマンス評価の可能性」企画提案者: 松下佳代 (京都大学)、大学教育学会第34回大会、北海道大学
- ・坂本尚志 2012.11.17 「「他者の統治」から「自己の統治」へ—フーコーの未公開講義『主体性と真理』について—」日本フランス語フランス文学会関西支部大会、芦屋大学

2. 教育活動

【学内】

②学部教育

- ・「二十世紀学演習Ⅱ: 二十世紀思想史の諸問題」(文学部、前期)
- ・「二十世紀学演習Ⅱ: フランス語コミュニケーション入門」(文学部、後期)

3. その他の活動

【社会活動】

- ・大学コンソーシアム京都FDフォーラムワーキンググループ委員

【その他】

- ・2013.2.23 第18回大学コンソーシアム京都FDフォーラム分科会「ティーチング・ポートフォリオの組織的導入と活用」コーディネーター、司会

田中 一孝 (特定助教) (2013年3月)

1. 研究業績

【学会発表】

- ・田中一孝 2013.3.18 「プラトンにおける観劇の心理学」2012年度 京都大学哲学・西洋哲学史合同研究会、京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ・京都大学 文学部 非常勤講師（哲学基礎文化学系ゼミナール）

【学外】

- ・大阪体育大学 健康福祉学部 非常勤講師（英語ⅠA・英語ⅠB）
- ・大阪体育大学 学習支援室 チューター

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

赤松 紀彦（教授）

1. 研究業績

【著書】

（共著）

- ・道坂昭廣・赤松紀彦ほか著 2013.3 『中国語の世界—北京・2013』大地社

【学会発表】

- ・赤松紀彦 2012.7 「日本崑劇之友社二十年之回顧與展望」、第五回崑劇芸術節記念シンポジウム、中国、蘇州
- ・赤松紀彦 2012.10 「昆劇研究者からみた昆劇の身体、能の身体」、「能・昆劇の比較研究—一日中伝統演劇の現在と未来」記念シンポジウム「能の体、昆劇の体」、東京 座・高円寺

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「中国語ⅠA・B」
- ・「中国語ⅡA・B」

②学部教育

- ・「東アジア比較芸能論演習A・B」
- ・「東アジア比較芸能論A」
- ・「文化環境学入門B」（総合人間学部）

③大学院教育

- ・「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」
- ・「東アジア比較芸能論A」
- ・「地域文明論演習」（以上、人間・環境学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・CALL システム運用委員会
- ・初修外国語群会代表

吉田 純（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・吉田純 2012.9 「再帰性概念の社会情報学的意義についての予備的考察」『社会情報学』第1巻1号, 55-63頁

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「社会学基礎論」
- ・「経験社会学Ⅰ」
- ・「社会学基礎ゼミナールA・B」

②学部教育

- ・「社会情報論」
- ・「社会情報論演習A・B」(以上、総合人間学部)
- ・「社会学特殊講義」(文学部)

③大学院教育

- ・「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」
- ・「人間・社会行動論2」
- ・「社会行動論演習2」(以上、人間・環境学研究科、博士前期課程)
- ・「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」
- ・「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」(以上、人間・環境学研究科、博士後期課程)
- ・「社会学特殊講義」(文学研究科)

3. その他の活動

【学内委員】

全学共通教育システム委員会

- ・教養教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会A群科目部会
- ・教養教育専門委員会少人数教育部会

【社会活動】

- ・社会情報学会 会誌編集委員
- ・日本社会学会 データベース委員
- ・近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

山本 行男 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ Hirayama, T., Taki, M., Akaoka, K., & Yamamoto, Y. 2012 Development of a dual functional luminescent sensor for zinc ion based on a peptidic architecture. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* **22**, pp. 7410–7413.
- ・ Taki, M., Akaoka, K., Iyoshi, S., & Yamamoto, Y. 2012 Rosamine-Based Fluorescent Sensor with Femtomolar Affinity for the Reversible Detection of a Mercury Ion *Inorg. Chem.*, **51**, pp. 13075–13077.
- ・ Murakawa, T., Hayashi, H., Taki, M., Yamamoto, Y., Kawano, Y., Tanizawa, K., & Okajima, T. 2012 Structural insights into the substrate specificity of bacterial copper amine oxidase obtained by using irreversible inhibitors. *J. Biochem.*, **151**, pp. 167–178.

【学会発表】

- ・ Akaoka, K., Yamasaki, M., Taki, M., & Yamamoto, Y. 2012.7 Development of Highly Sensitive Time-Resolved Luminescence Sensors for Zinc Ion The Second Asian Chemical Biology Conference, Itoman, Okinawa.
- ・ 押田至雅・多喜正泰・山本行男 2012.9 「細胞内オルガネラ局在型亜鉛蛍光プローブの開発」錯体化学会第62回討論会、富山大学

- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2012.9 「細胞内亜鉛イオン検出を指向した時間分解型亜鉛蛍光センサーの開発」 錯体化学会第 62 回討論会、富山大学
- ・寺脇智紀・多喜正泰・山本行男 2012.9 「亜鉛蛍光プローブを用いた細胞膜脂質のラベル化技術の開発」 錯体化学会第 62 回討論会、富山大学
- ・多喜正泰・谷口暢子・石田昭人・田部勢津久・山本行男 2012.9 「長残光蛍光体を用いた新規イメージング技術の開発」 第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、北海道大学
- ・Taki, M., Iyoshi, S., & Yamamoto, Y. 2012.11 Fluorescent Sensors Based on Copper-induced C-O Bond Cleavage and Its Application to Intracellular Imaging. The 6th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference, Hong Kong Polytechnic University.
- ・Akaoka, K., Taki, M., Iyoshi, S., & Yamamoto, Y. 2012.11 Fluorescent Sensor for Reversible Detection of Mercury Ion with Femtomolar Sensitivity, The 6th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference, Hong Kong Polytechnic University.
- ・谷口暢子・多喜正泰・山本行男 2013.3 「生体適合性を有する長残光蛍光体ナノ粒子の調製および機能評価」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.3 「細胞内で長時間観察可能な時間分解型亜鉛蛍光センサーの開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・谷口暢子・多喜正泰・山本行男 2013.3 「生体適合性を有する長残光蛍光体ナノ粒子の調製および機能評価」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・三井浩司・多喜正泰・山本行男 2013.3 「スピロ開環反応を利用した銅一価イオン蛍光センサーの開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・寺脇智紀・多喜正泰・山本行男 2013.3 「銅触媒によるアジド-アルキン付加環化反応を加速する新規配位子の開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・押田至雅・多喜正泰・山本行男 2013.3 「種々のオルガネラ局在型亜鉛蛍光プローブを用いた細胞のマルチカラーイメージング」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男 2013.3 「可逆的な結合能を有する高親和性水銀イオン蛍光センサーの開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・吉原朋弘・多喜正泰・山本行男 2013.3 「一重項酸素を検出する時間分解型蛍光センサーの開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学
- ・酒井尚子・多喜正泰・山本行男 2013.3 「金ナノ粒子を用いた ^{19}F MRI プローブの開発」 日本化学会第 93 春季年会、立命館大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「基礎有機化学 A・B」
- ・「基礎化学実験」

②学部教育

- ・「物質構造論」
- ・「課題演習：分子の構造と機能」
- ・「自然科学特別ゼミナール A・B」（以上、総合人間学部）

③大学院教育

- ・「相関環境学研究 I・II」
- ・「分子生体相関論 1」
- ・「分子環境相関論演習 1・2」
- ・「分子・生命環境基礎論」（以上、人間・環境学研究科 博士前期課程）

- ・「相関環境学特別研究Ⅰ・Ⅱ」
- ・「分子環境相関論特別演習Ⅰ・Ⅱ」
- ・「分子・生命環境論特別セミナー」(以上、人間・環境学研究科 博士後期課程)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・基礎教育専門委員会委員
- ・化学部会委員

【その他】

- ・2012年11月5日 京都府立桂高等学校 出前授業
- ・2012年11月26日 京都府立亀岡高等学校 出前授業

田地野 彰 (教授)

1. 研究業績

【著書】

(共著)

- ・田地野彰 2012.7 [内容論・授業論]「学習者にとって『よりよい文法』とは何か?—『意味順』の提案」『学習英文法を見直したい』大津由紀雄(編著), 研究社 157-175頁

(監修)

- ・田地野彰 2012.8 『「意味順」で中学英語をやり直す本』佐々木啓成, フランチェスコ・ボルスタッド(著), 中経出版, 全143頁.
- ・田地野彰 2012.9 Study-Abroad & Preparation for Academic Writing, (アカデミックライティング e-Learning 教材) 公益財団法人日本英語検定協会.

【学会発表】

- ・穆迪・清水千恵・田地野彰 2012.6 「意味を重視した中国語文構造の指導—中国語テキスト掲載例文を用いた『意味順』の検証—」中国語教育学会10周年・高等学校中国語教育研究会30周年記念合同大会、神田外語大学

2. 教育活動

【学内】

①学共通教育

- ・「英語ⅡA・B」

②学部教育

- ・「英語教育方法論」(総合人間学部)

③大学院教育

(博士前期課程)

- ・「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」

- ・「教育言語学」

- ・「外国語教育基礎論」

- ・「外国語教育基礎論演習」

(博士後期課程)

- ・「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」

- ・「外国語教育論特別演習Ⅰ・Ⅱ」

- ・「外国語教育論特別セミナー」(人間・環境学研究科)

【学外】

- ・ 京都府立大学 英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語科教育法Ⅲ
- ・ 奈良女子大学国際交流センター 夏季英語講座
- ・ 京都府立向陽高校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 外国語教育専門委員会英語部会
- ・ 人間・環境学研究科英語部会（教務委員）
- ・ 国立七大学外国語教育連絡協議会

【学外委員】（研究活動）

- ・ ELT Journal（Oxford University Press，英国）編集委員
- ・ 社団法人大学英語教育学会関西支部副支部長
- ・ 社団法人大学英語教育学会本部幹事（国際大会支部組織委員会委員長）
- ・ 社団法人大学英語教育学会本部幹事（学術出版 Selected Papers 委員会委員長）

【講演・シンポジウムなど】

- ・ 田地野彰 2012.4.21 「これからの大学英語教育—学術研究に資する英語教育」大阪府主催シンポジウム「『実践的英語教育』強化事業推進フォーラム」（主催：大阪府；共催：米国 ETS，CIEE 日本代表部）（招聘）
- ・ 田地野彰 2012.5.25 「『意味順』英語学習法のすすめ」（兵庫県立相生高等学校）平成 22 年度魅力あるひょうごの高校づくり推進事業インスパイア・ハイスクール「国際理解」招待講演
- ・ 田地野彰・金丸敏幸 2012.6.16 「ESP／EAP に向けた大学における文法教育の再考—『意味順』を活用して—」（大阪大学）大学英語教育学会関西支部春季大会 招待ワークショップ
- ・ 田地野彰 2012.7.20 「教育言語学の視点から英文法教育を考える—『意味順』を中心として—」（筑紫女学園高等学校）招待講演
- ・ 田地野彰・金丸敏幸 2012.9.06 「大学英語教育の充実に向けて—学術データベースの構築と応用」（九州大学大学院言語文化研究院）招待講演
- ・ 田地野彰 2012.11.15 「コミュニケーションに活かす英文法指導とは？—『意味順』の提案—」（広島修道大学）学術講演会 招待講演
- ・ 田地野彰・金丸敏幸 2012.11.22 「英語リスニング教育での OCW 2 次活用について」日本オープンコースウェアコンソーシアム主催、京都大学学術情報メディアセンター共催シンポジウム＜オープンな教育資源活用について＞（京都大学）招待講演
- ・ 田地野彰 2013.3.17 「コミュニケーションに活かす英文法指導を考える—『意味順』指導法の紹介—」（お茶の水女子大学附属高校）関東甲信越英語教育学会春季研修会 招待講演

【その他】

- ・ 田地野彰 2012.4-2012.9 NHK E テレ語学番組「基礎英語ミニ」番組監修
- ・ 田地野彰 2012.5 大学英語教育学会関西支部 News Letter No. 61. 巻頭言執筆
- ・ 田地野彰 2012.10 平成 24 年度国立七大学外国語教育連絡協議会（於 東京大学）に参加・情報交換

David Jerome Dalsky（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ Koyasu, M., Kusumi, T., Kirk de Carvalho Filho, M., Hashimoto, K., Fujita, K., Suzuki, S., Oyama, Y., Becker, C., Uchida, Y., Dalsky, D., Mattig, R., Sakurai, R., & Takatsugu, K. 2012. 3. A cross-national study on happiness: Data from thirteen countries. Japanese Psychological Review, 55, pp. 70-89.

【学会発表】

- ・ Dalsky, D., & Garant, M. 2012. 10. A case study of a Japanese-Finnish university online academic writing collaboration. Poster presented at the 43rd Annual Conference of the International Society for Exploring Teaching and Learning, San Antonio, TX, USA.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語ⅠA」
- ・「英語ⅠB」
- ・「英語ⅡA」
- ・「英語ⅡB」
- ・「英語ⅡA 単位未修得者クラス」
- ・「英語ⅡB 単位未修得者クラス」
- ・CALL（英語ⅡAB 単位未修得者クラス）試験を作る
- ・Pocket Seminar: Academic Hip Hop: Introduction to Psychology

③大学院教育

- ・「異文化理解教育論1」
- ・「異文化理解教育論2」
- ・「外国語教育研究論」

【学外】

- ・Kobe University Faculty of Literature: Advanced Academic Writing Intensive Course (for Ph.D students)

Timothy William Stewart（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・Stewart, T. 2013.3. Classroom research for language teachers. Alexandria, VA: TESOL International Association.

【論文】

- ・Stewart, T. 2012.7. Raising voices and choices through education. US-China Education Review, 2(7), pp. 638-646.
- ・Stewart, T. 2013.3. Classroom research and classroom teachers. Foreign Language Learning and Teaching 2013 Conference Proceedings, pp. 134-142.

【学会発表】

- ・Stewart, T. 2012.5. “Communication and literacy in the liquid-modern world,” Presentation—Language in the Realm of Social Dynamics Conference, Bangkok, Thailand.
- ・Stewart, T. 2013.3. “Classroom research for enhanced professionalism,” Presentation—Conference on Foreign Language Learning and Teaching, Bangkok, Thailand.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語ⅠA」
- ・「英語ⅠB」
- ・「英語ⅡA」
- ・「英語ⅡB」

- ・「英語ⅡA 単位未修得者クラス」
- ・「英語ⅡB 単位未修得者クラス」
- ・CALL（英語ⅡAB 単位未修得者クラス）試験を作る

③大学院教育；

- ・「外国語教育授業研究論 1・2」

【学外】

- ・2012.4-2013.3 Editor of the TESOL Journal section, Communities of Participation in TESOL
- ・2012.4-2013.3 Manuscript reviewer for the JALT publication The Language Teacher

3. その他の活動

【学内委員】

- ・2012.4-2013.3 国際交流委員会委員の活動
- ・2012.4-2013.3 国際交流の活動 Raku-Yu Public Relations Booklet Senior Editor

【社会活動】

- ・2012.4-2013.3 JACET 2013 Conference Organizing Committee member

桂山 康司（准教授）

1. 研究業績

【その他の著作物】

- ・桂山康司 2012.9 「汝自身を知れ」：ミルトンの言語認識と自己認識『MAJ NEWS（The Milton Association of Japan）』vol.3（2011），4頁

【学会発表】

- ・桂山康司 2012.12 「“Peace” について」日本ホプキンス協会関西西部会第386回例会、キャンパスプラザ京都

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「英語ⅡA・B」
- ・「イギリス詩入門（ポケット・ゼミ）」

②学部教育

- ・「西欧近代表象文化論ⅣB」
- ・「西欧近代表象文化論演習ⅣA・B」（以上、総合人間学部）
- ・「英語学英文学（講読）」
- ・「アメリカ文学（講読）」（以上、文学部）

③大学院教育

- ・「共生文明学Ⅰ・Ⅱ」
- ・「イギリス近現代文化論2B」
- ・「西欧文化論演習2A・B」
- ・「歴史文化社会論」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）
- ・「共生文明学特別研究Ⅰ、Ⅱ」
- ・「歴史文化社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）

【学外】

- ・京都府立大学 英語A、英語B
- ・神戸大学 イギリス文学特殊講義、英米文学特殊研究Ⅳ

- ・播磨高等学校 知的好奇心学 (高大連携プロジェクト)
- ・秋田県立横手高等学校 (高大連携プロジェクト)
- ・清教学園中学校 (高大連携プロジェクト)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進機構全学共通教育システム委員会委員
- ・全学共通教育システム委員会外国語教育専門委員会委員
- ・外国語教育専門委員会英語部会委員
- ・全学共通教育システム委員会 B 群科目委員会委員
- ・英語部会主任 (人間・環境学研究科)
- ・人間・環境学フォーラム実施委員会委員長 (人間・環境学研究科)
- ・建築委員会委員 (人間・環境学研究科)
- ・大学院教務委員会委員 (人間・環境学研究科)
- ・全学共通教育実施委員会委員 (人間・環境学研究科)
- ・ハラスメント窓口相談員 (高等教育研究開発推進センター) (平成 23 ～ 24 年度)
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会

【社会活動】

- ・日本英文学会大会準備委員会副委員長 (2012-13 年度)
- ・日本英文学会関西支部編集委員
- ・日本ミルトン協会企画委員
- ・日本ホブキンズ協会関西支部運営委員
- ・岸和田市青少年指導員 (2012-13 年度)
- ・岸和田市全八木地区連合子ども会指導者連絡協議会会長

【被取材】

- ・2012.9 『京都大学 by AERA：知の大山脈、京大。』(AERA ムック) 朝日新聞出版、56 頁

久代 恵介 (准教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・Kushiro, K. 2012.8 Vestibular and spatial perception. J. Phys. Fitness Sports Med. 1, pp. 001-004.

【学会発表】

- ・Goto, F, Tsutsumi T and Kushiro, K. 2012.6 “The anxiety affects the antero-posterior postural stability in patients with dizziness” XXVII Meeting of the Bárány Society, Uppsala, Sweden
- ・久代恵介 2012.11.29 「受動回転記憶と回転再現の方向依存性」第 71 回日本めまい平衡医学会、東京
- ・久代恵介 2013.3.9 「受動回転の記憶と想起」平成 24 年度 JAXA 宇宙環境利用科学委員会 第 8 回「宇宙環境へ適応するための感覚—運動ゲインコントロール」についての WG 会合、京都

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・「スポーツ実習ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB」
- ・「行動神経機能論演習」
- ・「行動神経機能論ゼミ」

- ・ポケゼミ「認知・行動科学への招待」（リレー）
- ・「心理学基礎論」（リレー）

②学部教育

- ・「認知行動科学入門」（リレー）

3. その他の活動

【講演】

- ・久代恵介 2013.2.8 第49回京都大学総合博物館セミナー『空間を知覚してからだの動きを制御する』

【その他】

- ・久代恵介 2012.9.26 京都府立福知山高校「みらい学Ⅱ」出張指導